❺ 疑義照会に関する事例

疑義照会を行わなかった事例

ヒヤリ・ハット事例のうち、疑義照会を行わなかったがその後疑義が生じた事例が１５０件報告されています（集計期間：２０１５年1月１日～１２月３１日）。報告された事例に記載されていた疑義照会をすべきであった内容を以下に示します。

疑義照会をすべきであった内容		主な事例の内容
患者関連	患者氏名	・患者が持参した処方せんの医薬品を渡したが、処方せんが別人のものであった。 ・患者が同姓の他患者の処方せんを持参したが、気付かず調剤した。
	患者の病態	・併用薬の確認を怠り、糖尿病の患者にクエチアピンを渡した。 ・糖尿病患者であることに気付かず、追加処方になったセロクエル錠をそのまま交付した。
	患者の副作用歴	・クラビットによる副作用（薬疹）歴がある患者に、レボフロキサシン錠が処方され、そのまま調剤した。 ・ペニシリン系抗生物質で蕁麻疹の出たことがある患者にオーグメンチン配合錠が処方されたが、鑑査不十分のまま渡した。
	患者の年齢	・ペリアクチンが新生児に禁忌であることを見落として交付した。
	妊婦・授乳婦	・妊娠末期の患者に、妊娠末期の婦人に禁忌であるロキソニン錠を交付した。 ・レバミピドを交付後、患者が授乳婦であることに気付き、処方医に連絡して処方が取消しとなった。
医薬品関連	相互作用	・内科でベルソムラ錠１５ｍｇ服用中の患者に、耳鼻科から禁忌薬のクラリスが処方され、調剤した。
	同一成分、同効薬の重複	・定期薬にオメプラゾールが処方されている患者に対し、臨時でファモチジンが処方されたが、そのまま交付した。
	用法	・グルベス配合錠の用法が毎食後となっていたが、気付かなかった。
	用量	・１４カプセルまでの投与制限がある新薬が処方されたが、制限に気付かなかった。 ・レンドルミンは３０日までという日数制限があることは理解していたが、３６日分処方されたことに気付かなかった。
	分量	・添付文書にて1日２０ｍｇまでのベルソムラ錠２０ｍｇを２錠１４日で交付した。 ・医師はブルフェン錠１００　１日３錠で処方するつもりであったが、間違えて処方せんにブルフェン錠２００と記載した。薬歴より前回はブルフェン錠１００　１日３錠であったことに鑑査者、交付者は気付いたが、疑義照会せずそのまま交付した。 ・スピリーバ２．５μｇレスピマット６０吸入を１日１回、１回１吸入で調剤し、交付後に通常用量が１日１回、１回２吸入であることに気付いた。
	投与日	・通常、２週に１度の服用だが、処方医が服用日を書き間違えたことに気付かなかった。
	処方漏れ	・定期処方のうち降圧剤の処方がないことを医療機関に確認しなかった。

※　薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業　平成２７年年報２１７頁　図表５－１６

公益財団法人　日本医療機能評価機構　医療事故防止事業部
薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業
〒101-0061　東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル　電話：03-5217-0281（直通）　FAX：03-5217-0253（直通）
http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/